

さいたま市の新たなシンボルに

～ 独立行政法人 造幣局さいたま市局が開設 ～

新規加入の会員と共に

まだまだ、残暑きびしい8日(金)11時50分 JRさいたま新都心駅にいつものメンバー5人と、新規加入の会員1名を加えて6人が集まった。今回は開局が昨年10月という真新しい「造幣局さいたま市局」の工場見学と博物館だ。造幣局の業務内容の①貨幣の鑄造、②勲章の製造、③貴金属製品の品位証明、④地金・鉱物の分析試験、博物館での①大判・小判などの小銭、②勲章等などを見学しながら視野を広めた。

昨年 さいたま市局開設

「造幣局さいたま市局」は、昨年、造幣局東京支局が移転して開局した無料で見学できる博物館と工場だ。JRさいたま新都心駅東口から徒歩で

分。コクーンシティを抜け、

区画整理中の建設道路を通った住宅街の先に建っている。

造幣局は、近代国家としての貨幣制度の確立を図るため、明治新政府によって大阪の現

在地(大阪市北区)に創設された。造幣局は大阪市に本局、東京都豊島区及び広島市に支

局をもつ独立行政法人(下段参照)だ。このうち、造幣局東

京支局が、豊島区から防災公園の整備用地の確保の要請を

受けて移転を決定。一昨年7月、JRさいたま新都心駅東

側の三菱マテリアル総合研究所跡地に敷地面積約1.9haの新支局建設を着工、2016

年10月に貨幣や勲章などを製造する4階建ての工場棟と、

貴重な貨幣や造幣の歴史を学べる2階建ての博物館棟が完

成した。

工場棟では

製造過程を見る

工場棟では、百円や五百円の通常貨幣のほか、記念貨幣、勲章、金属工芸品などの製造をしている。

特にさいたま

市局では、プルーフ貨幣の製造

を中心に行っている。プルーフ

とは貨幣の仕上げ方法の名称で、特殊な技術

を用いて特別に仕上げた円形に、圧印機で貨幣の模様を2

度打ちし、美しい鏡面と鮮明な模様を有する貨幣に仕上げ

たものを記念品として製造販売している。

見学は平日のみとなっている。



プルーフ貨幣セット

、その
他小判・大判 秩父地方で造
「独立行政法人」とは、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から確実に実施されることが必要な事務及び事業であって、国が自ら主体となつて直接に実施する必要のないもののうち、民間の主体に委ねた場合には必ずしも実施されないおそれがあるもの、又は一つの主体に独占して行わせることが必要であるものを、効果的かつ効率的に行わせるために設立される法人をいう。(独立行政法人通則法第2条)

博物館では

貨幣の歴史を学ぶ

博物館棟の名称は「造幣局さいたま博物館」。1964年の東京五輪や札幌、長野冬季五輪のメダル

が並び

ほか、

世界の



「今も連日多くの方々が見学に訪れているが、「移転前の東京支局(東京都豊島区)には年間約5万人が見学に訪れていた。」

誰もが知る新都心の新たな
シンボルになってほしい」と
期待を寄せているようであ
る。